

米国・ワシントン大学短期プログラムに参加して

札幌校 言語・社会教育専攻1年 山田 愛子

今回、このプログラムに参加しホームステイ体験を通して異文化をもつ人々と家族の一員として暮らし、密接に交流したことは新しい人生観を手に入れ、自分の将来について深く考える良い機会になったと思います。3週間という短い時間でしたが、私にとっては悔いのないほど毎日が充実したものでした。



大学構内のDrumheller Fountain

初めに、ワシントン大学で受けた授業の印象及び感想について述べようと思います。大学に着いた初日にテストを受けレベル別に3つのクラスに分けられます。スピーキングとリーディングのテストでしたが、スピーキングをより重視するため高いレベルのクラスに入りたい場合は、事前に会話力を高めておいた方が良いでしょう。授業は基本的にリスニングとスピーキングをクラスメイトとの会話練習、グループディスカッションなどを通して集中的に磨くものでした。私のクラスは日本人以外に韓国・台湾・ドバイ・サウジアラビアなどからの参加者がいたため、彼らと休み時間にお互いの国について話すことができ異文化交流の良い機会になりました。中には日本にとっても興味をもってくれた方もいてとても嬉しかったです。クラスを受け持っていた教授も親しみやすく、生徒の質問にも丁寧に答えてくれる方だったので英語力を留学前よりも向上できたと思います。とても質の高い授業でした。

次にシアトルでの生活、都市の様子についての感想を述べたいと思います。私のホームステイ先は私とほぼ同世代の姉弟がいるとても和気藹々とした4人家族で休日には姉弟が車でキングストンまで連れて行ってきてくれてフェリーに皆で乗り、シアト

ルの自然を満喫したり、平日の夜ホストマザーが買い物に行く際には必ず連れて行ってくれるなど、常に家族の誰かが一緒にいてくれたため、楽しい時間を過ごすことができました。ホストファミリーは、趣味が料理で毎日美味しい御飯を作ってくれました。



キングストンのフェリーからの眺め

ホストファミリーの皆さんには本当にお世話になったと思っています。感謝の思いでいっぱいです。ホストファミリーと良好な関係を築きたい場合はとにかく些細なことでもいいので会話をつなげることが大事です。コミュニケーションを十分にとるとまるで本物の家族のようにすっかり馴染むことができるはずです。また帰宅時間はあまり遅くなりすぎないようにする、きちんとお礼を言うなど必要最低限の配慮も大事です。シアトルで一番驚いたことはレストラン、日用品店などといった場所で店員が「どこの国から来たの？」など気さくに話しかけてくれることです。自分の英語力を磨く絶好のチャンスだと思って会話を楽しむのも良いと思います。

シアトルで過ごした日々は私にとって非常に貴重な時間でした。毎日が言葉では表現できないほど充実し、日を積むごとに、自分自身が内面から大きく成長していくのを実感しました。



ホームステイ先のご家族を含め、シアトルの人々との出会いは生涯忘れられない大切な思い出です。

キングストンでホストファミリーと一緒に食べたアイスクリーム

この度の短期留学にあたってお世話になりました皆様に感謝申し上げます。